# 「＋1」改良型、今秋導入へ

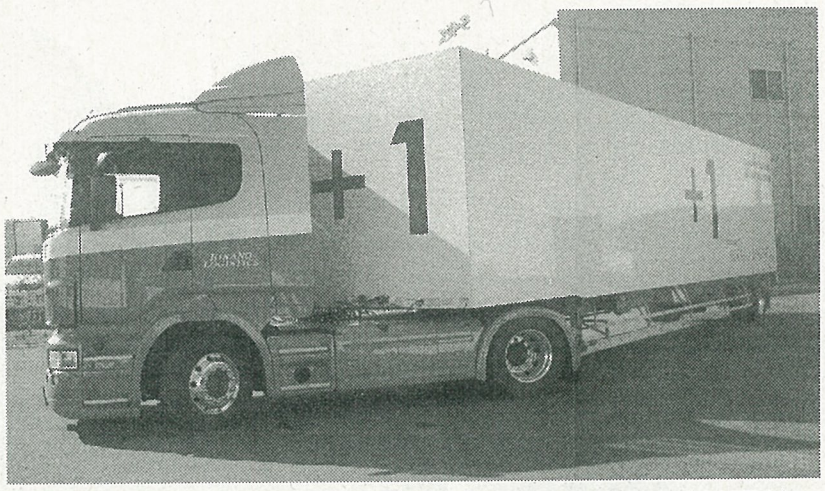
## 航空・一般貨物双方に対応

## 平野ロジスティクス

## 柔軟性高め物流効率化に貢献

平野ロジスティクスは、メインデッキサイズのパレットやルーズ貨物などに対応可能なセミ・トレーラー車「＋1」の増車を計画している。「＋1」は、96㌢仕様のULDを4台搭載できる。通常の大型トラックと比較して1台多く搭載できることが名称の由来。今回、導入するのは、従来の「＋1」のアップデートバージョン。航空貨物以外の一般貨物とのコラボレーションも可能な仕様となる。航空貨物に関しては、空港外施設を含む成田地区と羽田空港間の横持ち輸送に投入する方針で、今年秋にも運行を開始する予定だ。平野ロジスティクスによると、「＋1」は大ヒットしており、12台がフル回転で運行している。益子研一営業部長兼関東支店長は「新型の『＋1』を導入することで、お客さまの物流効率化に、これまで以上に貢献していきたい」と話す。

益子研一部長



平野ロジスティクスの「＋1」。改良型を導入する計画だ

また「＋7」に改良を加えて、LD3コンテナを8台多く搭載できる「＋8」を成田－羽田間のOLTを中心に投入している。

「＋7」「＋8」は、トレーラー部分が2層構造となっていることが特色だ。上段部へのコンテナ搭載のためにパワーゲートを装備しているほか、ベルトコンベアーで上段部の移動を自動化している。平野ロジスティクスは「＋7」「＋8」をそれぞれ1台ずつ運行している。

96㌢仕様のULDを5台搭載できるフル・トレーラー車「＋2」も2台保有しており、成田－羽田間のOLTを中心に投入している。「＋2」は現在2台。3台目を発注しているところだ。

一方、「昨今、フォワーダーが成田空港外施設から、成田空港の航空会社上屋への搬入だけでなく、羽田空港に直接搬入するケースも目立っている」（益子部長）という。ULD単位ではなく、ルーズ貨物の横持ち輸送に対応することの重要性も増している。こうした事業環境にある中で、メインデッキサイズのパレットなどとともに、ルーズ貨物にも対応できる「＋1」の特性を生かしていく。改良型の「＋1」は航空貨物だけでなく、一般貨物の輸送にも柔軟に対応できる仕様となっている。

益子部長は「フレキシブルな対応が可能な『＋1』をこれまで以上に活用していく。弊社は『航空会社トラック』のイメージが強い側面があると認識しているが、今後は『フォワーダートラック』としても、より良いサービスを提供し、成田－羽田間の輸送効率化、環境負荷低減など社会貢献につなげていきたい」と説明する。

平野ロジスティクスは現在、「＋1」を12台保有。そのうち関東支店（成田市）に9台、関西支店（大阪府泉佐野市）に2台を配備。5月に東海支店（静岡県袋井市）に1台を配備する計画だ。東日本－西日本間の長距離輸送に際して、中継輸送ネットワークを構築することも、東海支店に「＋1」を配備する背景にある。

新型の「＋1」はオランダのボディー・メーカーで製作中。7月末の完成、8月上旬の積み出し、9月の日本到着（横浜港）、国内での所要の手続きを経て、10月下旬にも日本で運行を開始する予定だ。

## 運送状エラー検出システム

# スキポール空港で試験運用

## 自動通知で貨物流動高速化

アムステルダム・スキポール空港（以下、スキポール空港）を中心とする貨物ニティーが展開する「スマートカーゴ・メインポート・プログラム」における「グリーン・ファースト・レーン」プロジェクトの一環として、輸送情報のやり取りの強化によりスキポール空港発着のトラック輸送貨物フロー改善に着手。「コンテナ・パレットは例をたるシステムの機能について「似たような品目の異なる記述を認識し、フラグを立てる。例えば、『鉄』という用語は税関規則に準拠していないため、アラートが通知されるが、『鉄パイプ』という用語は準拠しているので通知されない」と説明。最

## 徳島県と包括連携協定

### ANAHD　沖縄経由で県産品輸出も

ANAホールディングス（ANAHD）と徳島県は11日、「徳島県の地方創生の推進に向けた連携と協力に関する協定」を締結したと発表した。同協定は観光や文化、スポーツなどの振興に関する7項目で構成される包括連携協定。ANA Cargoの沖縄貨物ハブを活用した県産品の輸出支援も実施する。ANAHDが地方創生に向けた包括連携協定を締結するのは、三重、静岡、北海道、高知に続き5例目。

同協定は、①観光、「阿波ふうど」の振興②サテライトオフィス誘致、移住促進③「あわ文化」の活動支援④スポーツ振興⑤交流人口の拡大⑥災害時の支援⑦その他、地方創生――の7項目で構成。

①では、観光振興策として、6～8月の3カ月間、機内ビデオや機内誌、機内食、ラウンジなどで「食」「酒」をはじめとした「阿波・徳島」の観光をPR。冬の旅行閑散期の誘客活動を強化すべく、パッケージツアー「誘遊四国キャンペーン」で「誘遊周遊バスも運行する。県産品の輸出支援はこの項目に含まれ、午前中に収穫した県産品を、沖縄貨物ハブ経由で翌日午前中にアジア各国に届ける。

サテライトオフィスの誘致に向けた旅行商品の強化や、セカンドキャリアを考えるANAグループ社員などの徳島県への移住仲介も実施。誘客策としては、徳島発着路線で最大約80%の乗継割引運賃を設定し、全国各地と徳島県の間で交流人口を拡大する。災害時の緊急物資輸送での連携も強めるほか、ANA総合研究所が人材派遣による地域活性化や観光振興に取り組む。

## 空港施設・17年3月期

## 経常益10%増

### 賃貸事業改善

空港施設の2017年3月期連結決算は、売上高が前期比4・6%増の216億6200万円、営業利益が29・9%増の38億2500万円、経常利益が10・0%増の34億9200万円、親会社株主に帰属する当期純利益は11・1%増の21億5100万円だった。テナントの入居が進んだことや電気・ガスなどのコスト減などが寄与した。

セグメント概況をみると、不動産賃貸事業は、羽田空港や関西国際空港周辺におけるテナント入居状況が改善。羽田旭町ホテル開業やシンガポール子会社の売り上げ拡大もあり、売上高は5・3%増の161億3100万円、営業利益は26・6%増の25億6000万円。

熱供給事業は、連結子会社の東京空港冷暖房による羽田空港沖合展開地区の地域冷暖房売上が堅調に推移。売上高は1・0%増の32億円、営業利益は電気料や燃料ガスの値下がりなどで37・6%増の11億4300万円だった。

給排水運営その他事業は、羽田空港の乗降客の増加に伴い、給排水の売り上げが堅調に推移、岐阜・瑞浪で太陽光発電所が稼働したことなどもあり、売上高は4・9%増の23億3000万円、営業利益は32・3%増の1億2200万円となった。

18年3月期通期連結業績予想は、売上高2210億8000万円、営業利益38億6000万円、経常利益36億4000万円、親会社株主に帰属する当期純利益23億1000万円を見込む。

## 副社長に乗田氏

空港施設は11日、日本航空の乗田俊明取締役（空港施設社外取締役）が6月29日に代表取締役副社長に就任する役員人事を発表した。同日開催予定の第48回定時株主総会および取締役会で正式に決定、就任する。佐藤学代表取締役副社長は退任する。

## 初の747ERF受領

### カーゴロジックエアー

英貨物航空会社カーゴロジックエアー（CLU）は4日、オランダに拠点を置く航空機リース会社エアキャップ（AirCap）から、B747ERF型1機を受領したと発表した。現在の運航機材はB747－400F型1機とB747－8F型1機。CLUの保有機材は計3機となった。同社のドミトリー・グリシンCEOは「英国発の新規路線に同型機の投入を検討している。今後3年間で貨物機の保有数を計5機とする計画だ」と述べた。

CLUは2016年2月に英国民間航空局（CAA）から運航証明書（AOC）を取得。同月から、エアブリッジカーゴ（ABW）とのACMI（機材、乗務員、整備、保険）契約に基づき、英国、欧州、アフリカ線でのABW向け定期貨物便および チャーター便の運航サービスを開始した。

## 最終赤字転落

### 路線見直しも

#### ガルーダ・インドネシア航空

【NNA・インドネシア】インドネシアの国営ガルーダ・インドネシア航空は2017年1～3月期連結決算で、9910万ドル（約110億8700万円）の純損失を計上し、83万4775ドルの純利益を出した前年同期から一転赤字に転落した。売上高は前年同期比6・2%増の9億950万ドルだった。業績の立て直しに向け、不採算路線の見直しを進める。

2日付ジャカルタ・ポストによると、先月に社長に就任したパハラ・マンスリ氏は「航空燃油コストが54%増の2億9230万ドルに拡大したことが響いた」と説明。ヘルミ財務担当取締役は「燃油コストの上昇に加え、閑散期に当たる1～3月は航空運賃が低く設定されることも利益を押し下げる要因となった」と付け加えた。パハラ社長は、国内・国際線の10～20路線でコスト削減を進める方針を提示。使用機種や乗り継ぎ便の変更などを行う計画で、向こう1～2週間で具体的な対策を詰める意向を明らかにした。ガルーダ航空は昨年、首都ジャカルタ－インド・ムンバイ路線のほか、国内線では北スマトラ州シランギット路線や東ヌサトゥンガラ州マウメレ路線などを開設したが、乗客数は伸び悩んでいる。

## 人事

◇空港施設
△新役員体制▽
（6月29日）代表取締役副社長＝乗田俊明▽取締役＝重王

大阪国内＜4月＞
本紙集計による大阪地区の乗降客数（速報値）は、4月は前年同月比0・1%減の1万8万1000人と、2カ月ぶりに減少した。

全体像がわかる！　改訂版
Sea&Air輸送は、キャントランスで!!